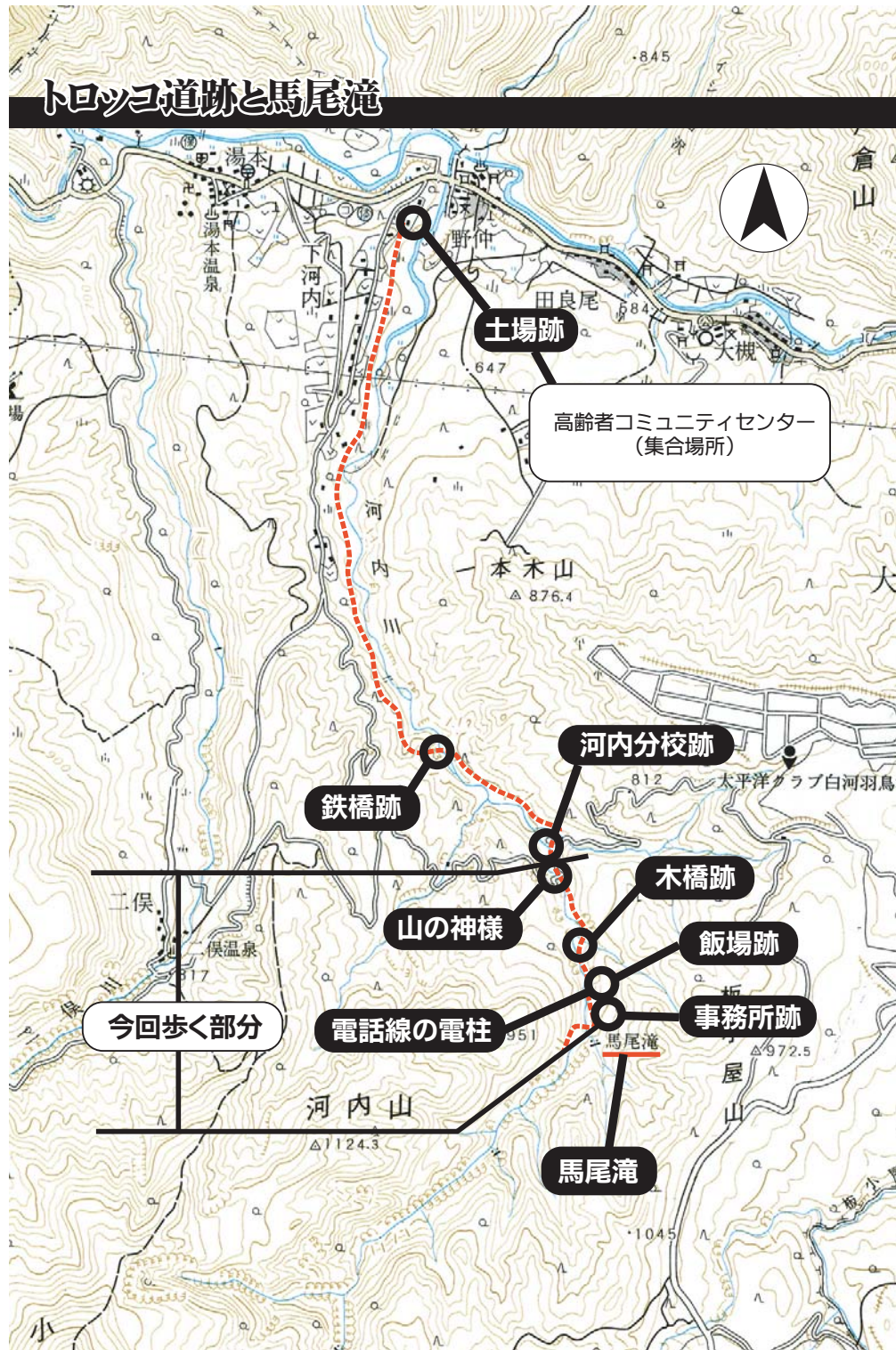


トロッコ道跡と馬尾滝



■河内川沿いのトロッコ道

天栄村湯本地区にある鎌房山、白森山、二岐山はいわゆる奥山(湯本地域ではイリヤマという)であり、ブナやアスナロの森となっていました。戦後の木材需要の増大によって、この地の材木資源が注目され、昭和20年ころ、営林署によって森林軌道(トロッコ道)が敷設されました。

■トロッコの牽引

トロッコ道は伐採地とともに延伸され、最終的には天栄村最大の滝「馬尾滝」まで敷設されます。当初、トロッコを上流へ上げるためには牛が用いられていましたが、後にガソリンエンジンの牽引車へと変わります。

■トロッコ道とイリヤマでの生活

トロッコ道沿いには寝食をする「飯場(ハンバ)」や小学校の分校(河内分校)がありました。特に青森県からの出稼ぎの人が多かったようです。伐採や搬出の作業は雪の積もる冬にもおこなわれ、事故によって亡くなる方も少なくなかったようです。

近隣の集落からは炊き出しの人員などで多くの人を訪れており、トロッコに乗った記憶は今でも鮮明に覚えているそうです。

■トロッコ道の廃止

伐採が進み、河内川沿いの樹木が不足してくると、伐採の拠点は鎌房山や二岐山周辺へと移りました。そして、昭和35年ころまでにこのトロッコ道は廃止されたようです。

一般的には、軌道が廃止されるとそのレールや機材は撤去され、他の場所へ転用されることが多いのですが、この路線では廃止直後にはがけ崩れが起き、撤去不能となりました。そのため、現在でも多くの遺構が残され、当時を知る貴重な手がかりとなって